

## 「発達評価の共通の軸としている太田ステージを用いて」

愛名やまゆり園日中支援課  
柳田 修次・柿崎 亮太・森 航・濱田 由美子  
稲葉 里緒・多田 尚美・新実 和人

### 1.はじめに

近年、アセスメントの重要性が高まっている中で、専門性が高くなりすぎている印象がある。専門性が高くなり、その精度が増す事は悪いことではないが、実際に現場にその情報が降りてくるまでには時間がかかってしまうことがデメリットの一つとしてあるのではないだろうか。私たちがこれまでに研修を受けてきた中に太田ステージというアセスメント方法があり、簡易な検査方法に加えて、認知の状態をアセスメントする事が出来るという内容であった。実際に太田ステージがどのようなものであるか、そして成人利用者の方へ検査実施を行い、どのような事が分かるかを研究の目的として取り組んだ。

### 2.活動内容

#### (1)研修参加

- ①自閉症セミナーアドバンスコース -1名参加
- ②自閉症セミナー -2名参加

#### (2)勉強会

- ①太田ステージ勉強会 -8名参加

#### (3)検査実施

- ①LDT-R 検査実施 -2名(利用者)実施

#### (4)研修開催

- ①「太田ステージと自閉症」講師:武藤直子氏  
-19名参加

### 3.太田ステージとは

精神科医太田昌孝氏が作成し、認知障害の背

後にある表象機能の発達レベルとプロセスを Piaget や Wallon ら先人の英知や遺産と照合しながら、自閉症児それぞれが該当する Stage を設定する事で明確にしたものである。

### 4.太田ステージの特徴

- ・7、8歳までの認知構造を6つの課題によって知る事が出来る。
- ・言葉の表出を必要としない評価方法で言葉のない人にも実施可能である。
- ・発達の意味付けが分かる。
- ・発達段階毎に課題が用意されている。
- ・教材や課題の意味づけがわかる。
- ・発達の最近接領域の課題を選ぶことが出来る。
- ・自閉症の認知発達のために開発されたが、他の障害児者、定型発達児にも有効。
- ・太田ステージの評価によって利用者の認識や心の世界を知ることが出来る。
- ・科学的な根拠となる。
- ・支援者間でも共有の理解を持てる。

### 5.ステージの定義

Stage	シンボル機能の発達段階の定義	健常児での発達目安
Stage I	シンボル機能が認められない段階	
	I-1:手段と目的の分化が出来ていない段階	4ヵ月
	I-2:手段と目的の分化の芽生えの段階	8ヶ月
Stage II	I-3:手段と目的の分化がはっきりと認められる段階	1歳～1歳半
	シンボル機能の芽生えの段階	～2歳
Stage III	III-1シンボル機能がはっきりと認められる段階	2歳半前後
	III-2概念形成の芽生えの段階	3歳～4、5歳
Stage IV	基本的な関係の概念が形成された段階	～7、8歳
Stage V	それ以上	それ以上

### 6.LDT-R 検査

#### (1)検査内容

##### ①検査日時

平成30年1月22日(月)

## 平成 29 年度 研究活動援助事業③

Aさん:10:10~10:20

Bさん:10:30~10:37

### ②検査場所

愛名やまゆり園 心理診断室

### ③検査内容

LDT-R

### ④検査対象者

Aさん:46歳男性 Bさん:24歳男性

### ⑤検査実施者

地域サービス課 井岡職員

## (2)検査の様子、日中活動の様子

### ①Aさん(上:検査 下:作業)



### ②Bさん(上:検査 下:作業)



## (3)検査からわかった事

### ①Aさん 診断結果 別紙1参照

ア. 診断の様子を武藤直子氏に見てもらい、講評を頂いた。(時間の都合でAさんのみ)

・ステージIII-2という評価であったが、LDT-R4の「○○の側に置く」という「側」の意味がわかっていない様子に見えるため、実際にはステージIVの能力は持っているだろう。

イ. 活動内容は、鈴の上下に分かれている状態のものを、器具を使用し繋げる作業。本人のステージ的には少し簡単なような印象があるが、本人が感じる負担が少なく、自主的に取り組んでいた。

### ②Bさん 診断結果 別紙2参照

・ステージIII-1後期という評価。時間の都合上武藤氏による講評はいただけなかった。本人が話すことが少ない為、「ねこ」や「ボール」と言っていたのは意外な部分であった。作業内容は、銅線をビニールの外側と銅線の内側に分ける作業。とても難しい印象があり、本人の努力等で現在行えているが、途中目を強くつぶっているような場面もあり、負担感もあるような感じがした。

## 7.他の心理検査との比較とバッテリーについて

### (1)他の心理検査との比較

## 平成 29 年度 研究活動援助事業③

名称	所要時間	検査者	検査方法	キットの値段
LDT-R検査 (太田ステージ)	5～10分	誰でも (勉強必須)	個別 (活動場所の 端でも良い)	6,156円
田中ピネー 知能検査V	60～90分	専門家	個別式検査	119,340円
WISC-4	90分	専門家	個別式検査	135,000円
S-M社会生活 能力検査	20分	保護者や専門家	質問紙	手引き5,400円 検査用紙(20枚) 10,800円
ASA旭出式 社会適応スキル検査	20～30分	保護者や担任 ・専門家	質問紙	手引き5,400円 検査用紙セット 10,800円
ABC-J異常行動 チェックリスト日本語版	5分	保護者や担任 ・専門家	質問紙	チェックシート 3,240円

### (2) バッテリーとは

上記のようにアセスメントは多種多様にあるが、その中でも太田ステージの簡易さは理解していただけのように思う。

しかし、アセスメントにはそれぞれ出来る領域が限られており、太田ステージでいえば、本人の得意不得意な部分を見ることは苦手だとされている。その為にバッテリーを組むことが、利用者の全体像を捉える為には必要である。太田ステージだけではなく、他のアセスメントを行い療法の視点から見ることで利用者の方の本人像に近いアセスメントがとれるように思う。

## 8. 他業界との連携について ～太田ステージ研究会に参加して～

2018年1月27日(土)に東京北区北とぴあで開催された太田ステージ研究会では、医療・教育・福祉の3業界からそれぞれの発表があった。

### (1) 医療

#### ① 東京都立東大和療育センター 曾根医師の発表

太田ステージは医療業界ではまだまだ広まっていない。東大和療育センターでは実施しており、心理職から始まり現在は看護師、リハビリ職員全員が利用している。初診時全患者に太田ステージの評価をしている。それにより、入院中の対応やリハビリの動機付けなどにも利用している。

#### ② 東京都立東大和療育センター リハビリテーション課 田中作業療法士の発表

センター入所者全員に太田ステージの評価を行っており、ステージによって活動班も分けている。その中で、缶はがし(缶にマジッ

クテープをはりビリッとはがす)を行っていくことで缶に指をかける事が出来るようになりスプーンの把持に繋がっていった。また、手元を見なかった利用者が、型はめや紐通しを行うことで複数のカードを見比べるようになった。太田ステージを利用することで認知発達段階が解り、上肢機能を考慮し教材の操作性をシンプルにする事を行い、長い期間、繰り返し関わり続けることで良い変化をもたらしている。

### (2) 教育

#### ① 埼玉県立越谷特別支援学校 池澤教頭の発表

同県川口特別支援学校にて赴任時代に太田ステージを導入した。小中学部ではほぼ全てに児童に実施。教育現場での急速な世代交代が進んでいる現状で個人の力量を高めるのみでなく、学校全体の仕組みを整えることが重要となっている。太田ステージはシンプルなため、学校全体で導入しやすかった。子供の実態を客観的に理解するに役立ち、職員間での共通の「ものさし」とすることができた。授業のグループを編成する際に児童のステージを参考にすることで、グループに共通の教材教具を作成したり、児童生徒への指示や支援を適正化しやすくなった。また、授業の根拠や成長を確認する指標として保護者との連携に役立ち、職員間の引継ぎだけではなく、外部専門家との連携においても生徒の実態を伝える指標となった。

### (3) 福祉

#### ① 社会福祉法人 ポム・ド・パン 障害者支援施設ウインドヒル 鈴木副管理者の発表

成人施設。2名の男性、30歳、ステージII、重度の知的障害、支援区分6のケースについて話がある。同年齢、同ステージにも関わらず2人の利用者の特性は大きく違っている。一人は家事手伝い社会参加活動、軽スポーツなどの場面に合った活動(行動)をすることができるが、もう一人は要求に応じなければ大声や他害、破壊行為をおこなってしまう。そ

れは幼少期から成人になるまでの間で、保護者との関わりや家庭環境、兄弟関係、学校教育、福祉サービスなど、様々な要素・体験が本人の個性(能力)の形成に関与し、それがあっているか間違っているかは関係なく、長期間をかけて本人の中で定着している状況がある。太田ステージや支援区分が同等でも、人生の中で体験してきたことによって、どれだけ心が育っているか、本人と周りの人間との丁寧な関係づくりが積み重ねられてきたかによって支援の課題が大きく違う。

#### (4) 太田ステージ研究会に参加しての所感

まずは、各業界の人が同じことについて研究している事を聞くのがとても新鮮であった。これからは一人の利用者に対し、医療・福祉・教育がつながる機会は多くなっていく。その中で共通の「ものさし」の一つとなりえるのは、太田ステージではないかと思う。医療との連携では、通院や入院の際の情報提供で太田ステージがあれば、どのような認知発達の段階にあるかを看護師が理解することで、看護師の不安感や支援員の軽減につながるのではないかと。また、教育との連携では、高校卒業後の引き継ぎや環境設定、課題設定の必要性が伝えやすくなると思われる。研究会の途中で「相談支援専門員ってなに」などと、業界間での言葉や制度の質問が出るのが見られたのも印象に残っており、各業界を超えた制度や用語は、まだまだ伝わりづらいのが現状にあるように感じた。その中で太田ステージは共通言語となりえる可能性をもち、共通言語があることで業界間での関係性の構築が積極的に行われる「きっかけ」になるものでもあるように感じられた。

### 9.TAO という考え方

#### (1) TAO とは

TEACCH and ABA on the OHTA STAGE の略。太田ステージを基軸に置いた TEACCH と ABA の応用という意味。社会福祉法人けやきの里 佐々木敏宏氏が自閉症セミナーで公演を行っていた。

#### (2) TAO の可能性について

太田ステージ、TEACCH、ABA(応用行動分析)を効果的に利用していくことで支援を科学的に捉え、様々な場面に対応できることが考えられる。太田ステージでアセスメントを行い、TEACCH で構造化、行動に問題が出れば ABA で対応を行う。太田ステージでは次の認知発達の段階も示されているため、構造化や ABA を繰り返し行うことで、出来る事も増加すると考えられる。その人の伸び代を、しっかりと広げていく可能性があるものだと思う。

### 10.まとめ

太田ステージの簡便さと、そこからわかる認知発達の段階、そしてそれに合わせた課題設定の仕方。その3項があるだけでも、太田ステージの有用性は高いように思われる。

職員間での共通言語となり得る部分も大きな意味があり、実際の支援現場で考えると、新規利用の方の情報を引き継ぐ時にステージを知らせることで、寮の支援員は本人の発達の段階に応じた生活の環境設定が出来、日中活動の支援員は課題設定や必要に応じた環境設定を行うことが出来る。そして、部署に限らず同じステージの理解を持つことで、ズレの少ない情報共有ができることが考えられる。新規の利用の方でなくても、現在の課題設定や環境設定は本人に合っているかを再度確認し、本人の様子に合わせた課題の負荷の調整も根拠を持って行うことが出来る。

太田ステージを業界間に広げると、通院や入院の場面、学校を卒業して施設や事業所に入所する場面、就労につながる場面など、多くの場面で職員の負担の軽減に繋がっていき、最終的には利用者の負担が減ることにつながっていく。福祉という業界だけではなく、医療、教育、社会と様々な業界が繋がっていく架橋としても有効である。

しかし、太田ステージはアセスメント方法として、その人の得意不得意という部分を見る事は苦手だとされており、ストレングスを見つけるという部分は、利用者の様子観察や他のアセスメントを利用

## 平成 29 年度 研究活動援助事業③

していく必要がある。様々なアセスメント方法とバッテリーを組み合わせることで、前向きなアセスメントを実施していくことが出来る。

今回、太田ステージの研究をすることで、様々な事を同時に知ることが出来た。多くのアセスメント方法がある事、TEACCHという環境設定と構造化の事、応用行動分析、様々な業界の現状や他事業所、他施設の様子等である。支援技術だけでも色々なものがあるが、様々な技術の中で、その人に合った支援技術を用いて対応することが重要である。そのためには自己研鑽を怠らないことも大切だが、各技術や各業界の連携を意識することが、障害をもった人が多くの人に誤解されることがなく、必要な環境の中で生活が出来ることに繋がるのではないだろうか。太田ステージは、認知発達段階を検査することだけではなく、共通言語として今後も多くの人や技術を繋げていくツールとしても活用できるものであろうと考えられる。